



報道機関 各位

令和8年1月7日
長崎海上保安部

【問合せ先】
長崎海上保安部 交通課長 仮屋薦 剛
TEL 095-829-2819

令和7年の船舶事故・人身事故発生状況（速報値）

長崎海上保安部管内で発生した令和7年の船舶事故・人身事故の発生状況（速報値）は以下のとおりです。

船舶事故 33隻 → 昨年より5隻増加

＜運航不能の事故は22隻（昨年より9隻増加）＞（詳しくは令和7年の船舶事故発生状況へ）

人身事故 31人 → 昨年より8人増加

＜海中転落者数は12人（昨年より7人増加）＞（詳しくは令和7年の人身事故発生状況へ）

※上記の値は速報値であり、今後変更になる可能性があります。

事故内容別発生状況（長崎海上保安部管内）							
船舶事故（隻）	事故種類	令和7年	前年比	人身事故（人）	事故内容	令和7年	前年比
	衝突	5	-1		海中転落	12	+7
	単独衝突	1	+1		負傷	4	±0
	乗揚	2	+1		病気	4	-1
	転覆	2	±0		自殺	5	-1
	浸水	1	-3		溺水	1	±0
	火災	0	-1		帰還不能	5	+3
	運航不能	22	+9				
	その他	0	-1				

※）運航不能とは、船舶の運航に必要な設備の故障、バッテリー過放電、燃料等の欠乏等により、船舶の航行に支障が生じたことを言います。

カラー版は、以下のURLからダウンロード可能です。

【URL】

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/nagasaki/news/07kainansokuhou.pdf>



1 令和7年の船舶事故発生状況（速報値）

船舶事故発生状況と前年比

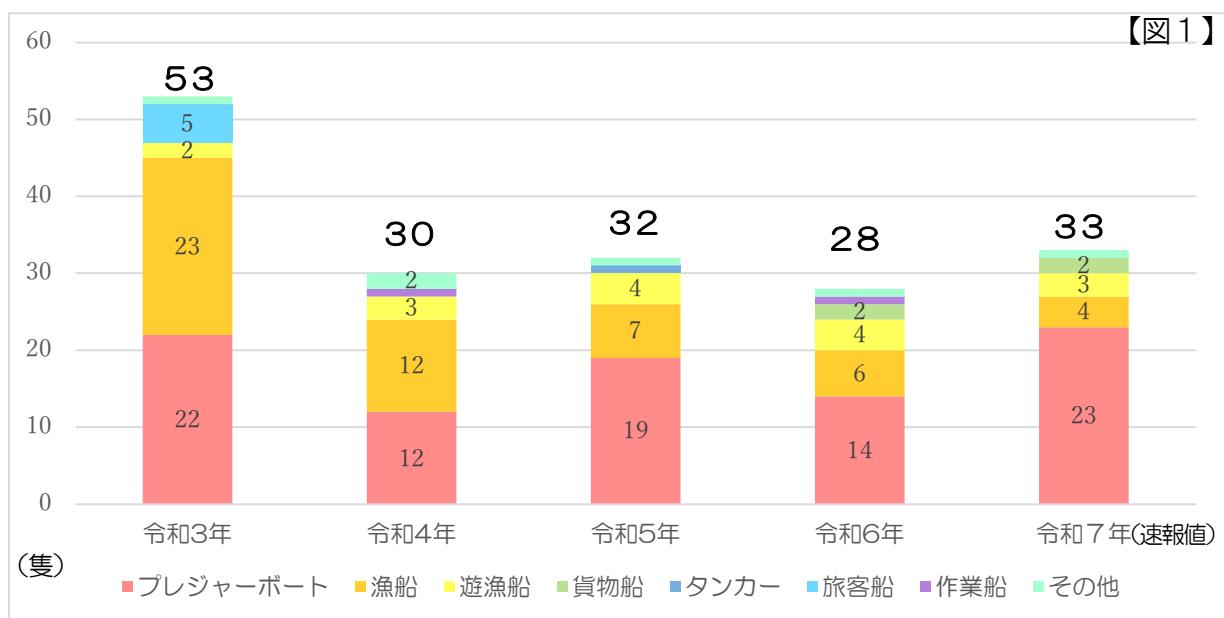
令和7年に発生した船舶事故は33隻で、死亡・行方不明者はいませんでした。

船舶種類別では、プレジャーボートによる事故が23隻と最も多く、令和6年より9隻増加しました。【図1参照】

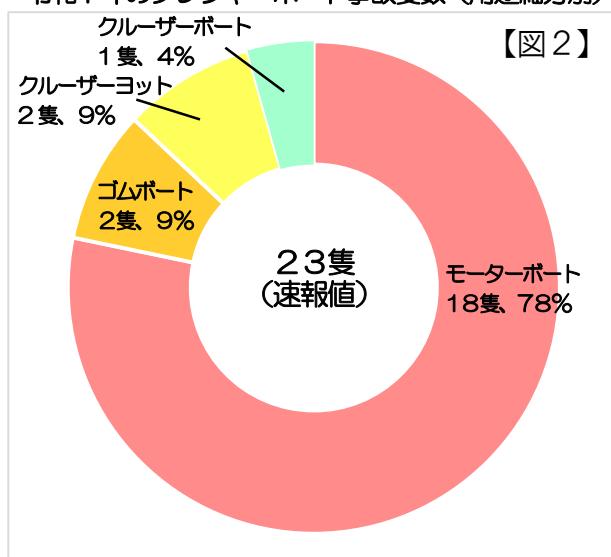
プレジャーボートの用途細別では、モーターボートによる事故が18隻と最も多く、令和6年より6隻増加しました。【図2参照】

また、プレジャーボートの事故種類別では、運航不能が17隻と最も多く、令和6年より9隻増加しました。【図3参照】

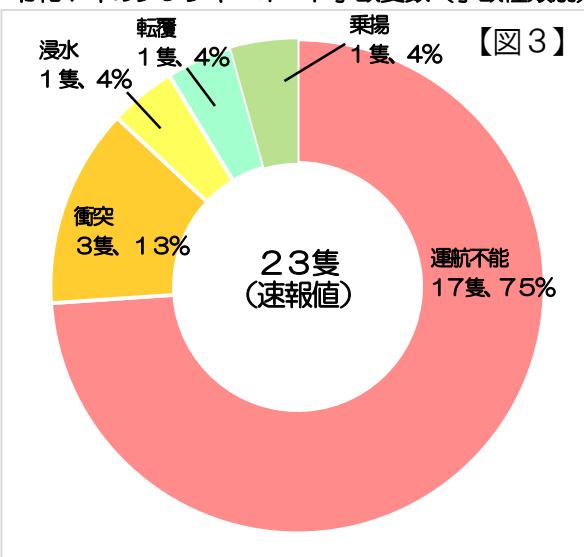
長崎管内における過去5年間の船舶事故隻数



令和7年のプレジャーボート事故隻数（用途細別）



令和7年のプレジャーボート事故隻数（事故種類別）



2 令和7年の人身事故発生状況（速報値）

人身事故発生状況と前年比

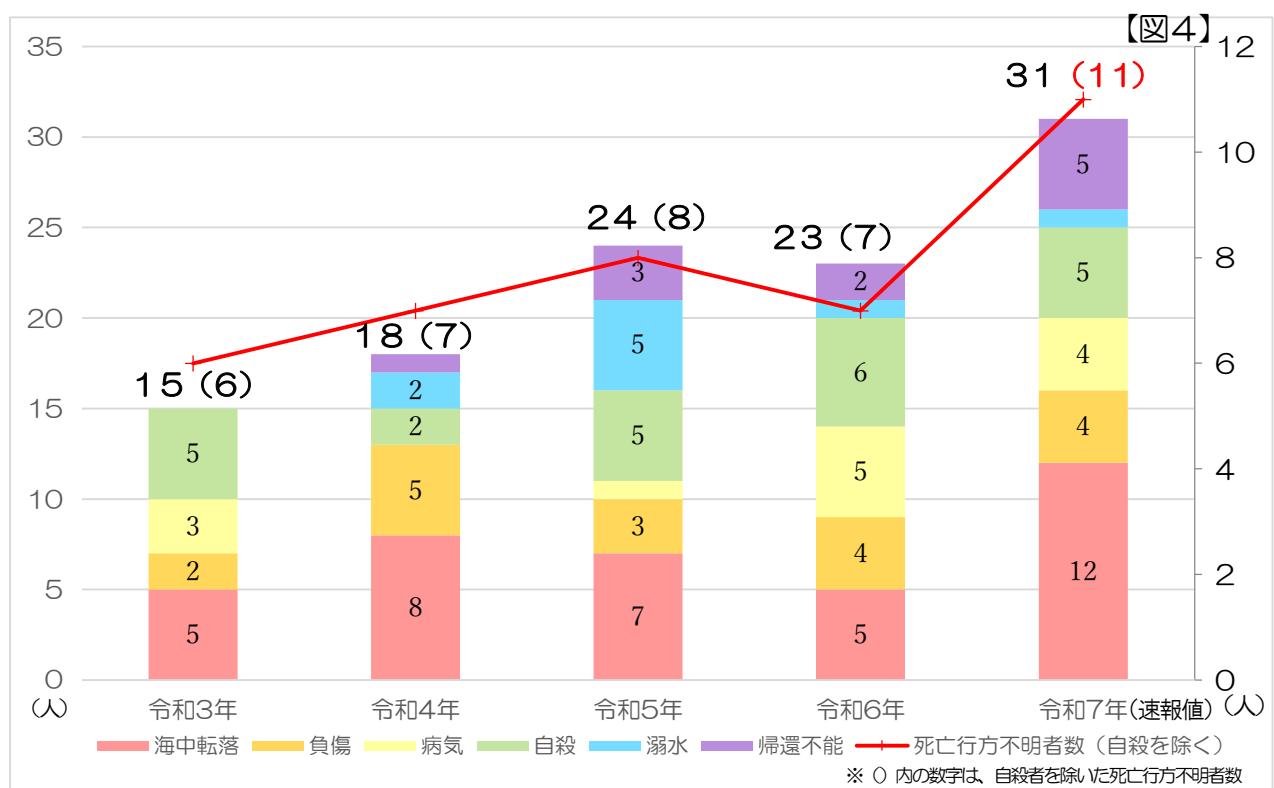
令和7年に発生した人身事故は31人で、令和6年より8人増加し、過去5年間で最多となりました。

事故内容別では、海中転落が12人と最も多く、令和6年より7人増加し、自殺者を除いた死亡行方不明者は11人と、過去5年間で最多となりました。【図4参照】

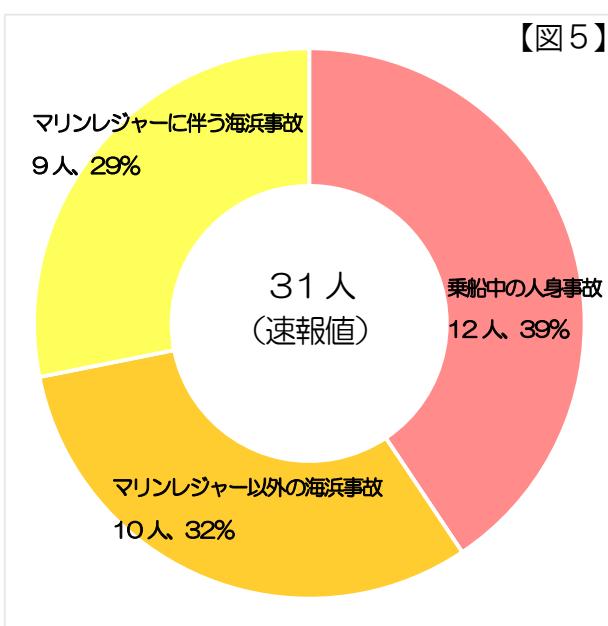
事故区分別では、マリンレジャーに伴う海浜事故が9人で、全て釣り中に発生した事故となっており、令和6年よりも7人増加しました。【図5参照】

また、マリンレジャーに伴う海浜事故の内、救命胴衣着用は3人（内、1人死亡）、未着用は6人（内、1人死亡）でした。【図6参照】

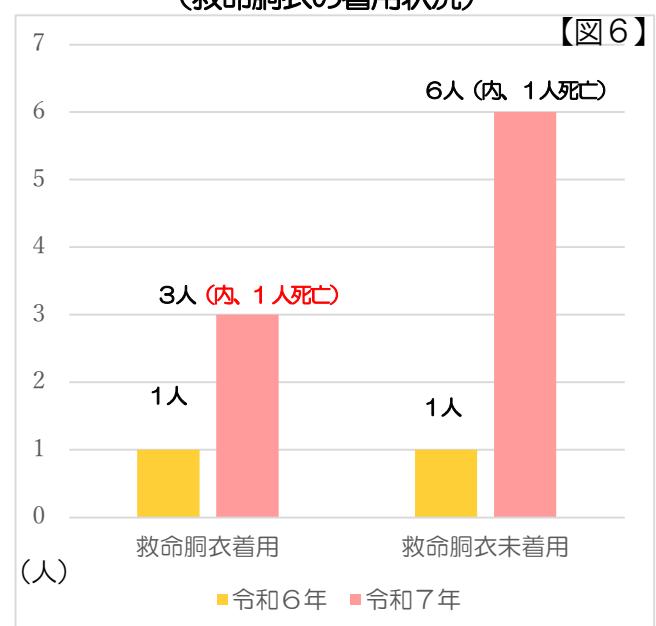
長崎管内における過去5年間の人身事故者数・死亡行方不明者数



令和7年の人身事故者数（事故区分別）



マリンレジャーに伴う海浜事故
(救命胴衣の着用状況)



3 令和7年の事事故例

事例(1) 航行中に機関故障、防波堤に乗揚げ、その後沈没、乗船者は巡視艇により救助

事故概要：船長は、自身のプレジャーボートに3名を乗船させ港を出港し、釣りを終えて港まで航行途中、エンジンに異常が生じたことから、その場で修理を開始したものの、修理中に、波の影響で船が近くの防波堤まで流され、そのまま防波堤に乗揚げました。

その後船は、船内に海水が侵入し、沈没、乗船していた4名は、防波堤に乗り移り、現場に駆け付けた巡視艇により救助され、船は、民間の業者により、引き揚げられました。



事例(2) 潮の干満により磯場に孤立、巡視艇により救助

事故概要：事故者は友人と2人で、干潮時に磯場に渡り、釣りを始めたものの、潮が満ちていくにつれて帰り道がなくなり、磯場で孤立したことから、118番へ救助要請がありました。

その後、通報を受け、現場に駆け付けた巡視艇により、2人は、救助されました。

なお、2人は、救命胴衣を着用していませんでした。

